

「上城小学校の西目イシシハカマ伝承活動の取組」

1 学校名

知名町立上城小学校

2 学年・人数

全校児童（計 28 人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

4 月～9 月（上城小学校運動場・音楽室・ホール）

（2）発表の日時・場所

上城小学校大運動会（10 月）

知名町小・中学校音楽発表会（11 月）

敬老会等各種イベント

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

西目イシシハカマ踊り（にしみいししはかまおどり）

（2）由来

江戸時代の終わりごろ，上城の沖野松盛が代官付人として鹿児島に行ったとき，歌を習い，島に持ち帰り，西目地区（上城・下城・新城の3集落）の人々とともに，踊りや三味線を加え創り上げたといわれる。当初は，高野家を中心に伝承されていたが，現在は西目地区で保存会を結成し，後継者育成を図っている。平成4年に知名町無形民俗文化財に指定され，平成12年から大運動会で児童・教職員・校区民で踊っている。

（3）構成等

江戸時代に流行した地突歌や祝儀歌の影響を受けている。

歌詞の内容は次のようになっている。姑が嫁に「石の袴を縫ってこい。」と無理難題を持ちかける。すると嫁は，「石の袴を縫いますから，浜の真砂の糸をください。」と返す。最後は，「お互いの大事な振り袖を合わせて，見事な袴を作りましょう。」と，仲良くなるというものである。

踊り手の人数は決まっておらず，三味線・太鼓の演奏に合わせて，笠・紋付き・袴・襷・脚絆・脇差しという姿で軽快に踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年，上城小学校・上城校区合同運動会では，全児童・職員・保護者・校区民が参加して，イシシハカマ踊りを披露するのが伝統となっている。また，学習発表会や島唄・島ムニ大会，地域の敬老会等での披露も恒例となっており，地域全体で保存伝承に取り組む体制づくりができています。運動会の前には児童・保護者・教職員が一緒になって練習をする。

今年度は町の小・中学校音楽発表会でも，三味線・太鼓を高学年，歌と踊りを中学年が担当して，イシシハカマ踊りを発表した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、中・高学年ともに「受けつごう！えらぶの文化」を設定し、三味線・島唄・郷土芸能等について学んでいる。本校の卒業生である地域住民に講師として来校していただき、三味線や島唄の指導を受けている。本年度は、三味線で「イシシハカマ」を練習し、歌や踊りとともに発表できるようにした。

また、正しい踊りの伝承のために、夏休みの職員研修では、保存会の方に踊り方を指導していただいている。特に本年度は、転入職員が多かったため、時間を長くにとって指導していただいた。

7 取組の様子



【上城小学校・上城小校区合同運動会の様子】



【知名町小・中学校音楽発表会の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 音楽発表会で、イシシハカマをカッコよく踊れたのでうれしかったです。あとからお母さんが「すごいよ。」と言ってくれました。こんどは三味線を教えてもらいたいです（児童）。
- 今年赴任してきて、三味線や踊りの指導に不安がありましたが、毎年の積み重ねにより、子どもたちがよく覚えているので、一緒に学ぶつもりで取り組みました。地域の方々も教えてくださったので、安心して取り組むことができました。地域の方々にとっても愛されている踊りなので、今後も大事に受け継いでもらいたいです（教職員）。
- 上城小の子どもたちは、イシシハカマの踊りと三味線・歌・太鼓の演奏を全て自分たちでやることができます。地域の方や先生方、保護者で教えています。イシシハカマ踊りには、道具や衣装も使います。これからは、袴の着付けも教えて、楽しく伝承していけたらいいなと思います（保護者）。